

本校におけるインターンシップの取り組み状況

「キャリア支援室長」

本校は本科3学科と専攻科2専攻が設置され、就業体験（インターンシップ等）は本科4年生(2024年4月現在116名)、専攻科1年生(同16名)が対象となっております。

当校は、山口県東部の瀬戸内海側に位置しており、在席学生の出身地域別（出身中学校別）では、本科学生総数633名中、山口県内515名、山口県外113名となっています。県外の内訳は広島県と福岡県で64名、そのほか九州や近畿・関東地区となっています。また、当校の学生寮には約170名が入寮しています。（専攻科生、留学生を含む）

近年、各企業様におかれましては、採用活動も視野に入れたインターンシップの活用が活発になっていると感じます。今年度から実施される企業様もあれば、毎年、思考を凝らしたユニークなテーマで実施される企業様など、参加学生の獲得に向け、試行錯誤されておられます。本校では、このような各企業様のインターンシップ情報をWeb上に公開して、全学科共通で閲覧が出来るようにしております。また、希望学生の人数にあわせて、各学科で人選を調整するなどの対応を実施しております。また、本校では、山口県外での就業体験に希望者が多いことなどから、山口県インターンシップ推進協議会様経由の申込者が少数にとどまっております(今年度：全4名)。そのため、山口県内の企業様のインターンシップ情報の効果的な学生への周知方法について、今後の課題として検討したいと考えております。



マナー講習の様子(8月6日)

また、8月6日（火）には、当校にてインターンシップの事前説明会に相当する職業体験（インターンシップ等）マナー講習会を、実地対面式で開催いたしました。開催に際しまして、事前に資料のご用意いただくとともに、当日は山口県インターンシップ推進協議会様より、講師としてお越しいただき、マナーのご説明のみならず、取り巻く環境や近況につきましても直接学生にお話をさせていただくなど、私共といたしましても有意義な時間になりました。

最後になりましたが、インターンシップの受け入れ、実施をしていただきました企業の皆様と、受け入れ態勢の確立とその調整にご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に感謝の意を表します。

採用直結型校外実習の現状と課題

「土木建築工学科・教授」

本校では、第4学年の夏休み期間中（8月中旬～9月末）に3学科とも校外実習を選択科目として開講している。実習期間は5日間（1単位）または10日間（2単位）とし、期間によって単位数が異なる。本校では基本的に、実習先の希望調査（4～5月）からマッチング（5～7月）、学生・企業への連絡、書類作成・学生への指示・確認、報告会の実施、成績評価までの一連の手続きを担任および学生課教務係職員が連携しながら進めているが、これらの教職員の負担が過大となっている。

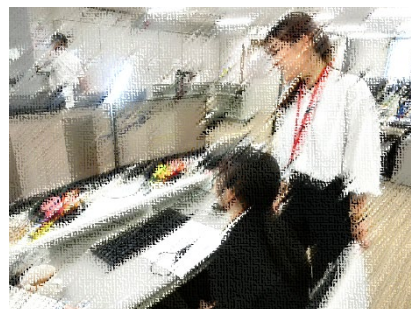


写真 社員の方より指導を受ける学生

その一因として、2025卒より解禁された採用直結型校外実習により、県外大手企業を中心に、校外実習の段階からSPI試験やweb（対面）での面談、適性試験といった何らかの「選考」を行う企業が増加したことが挙げられる。これにより、学生たちは年度当初の段階から、校外実習が単なる就業体験では無くその先に見え隠れする「採用選考」を強く意識するようになり、その結果として希望実習先を選べないという課題が浮き彫りになった。結婚するつもりでお見合いや合コンに行こうとすれば、相手を選べないのと全く同じ構図である。公務員においても、校外実習の申し込みの段階で職員採用試験さながらのエントリーシートの提出を求める自治体も複数あった。2023年度は解禁初年度につき、このような形式の校外実習を行う企業や自治体は少なかったものの、2年目となる本年度は、各業界の人材不足や担い手確保、高専生の採用ニーズの高まり等の波に後押しされる形で、採用を強く意識した校外実習が多かったように感じられる。1クラスの学生数は約40人であるが、仮に1人2か所ずつの企業等での実習を希望すれば80か所を超える調整や書類作成が必要となり、その時期も様式も申込方法も期限も多種多様であるため、担当教職員の負担は膨大である。何よりも、SPIや面接の基礎といった就活準備や心構え、企業研究が十分でないまま申込期限や企業担当者からの連絡に急かされ、学生たちがエントリーすることの弊害が最も大きな懸念事項である。校外実習という名の「選考」に学校側の指導や学生自身の心構えが追い付いていないのである。

一方、山口県内の企業や自治体の多くは本協議会が仲介することから、上記のような形での校外実習申込は無く、webからの申し込みと共通様式かつシンプルな報告書で済む点が学校担当者としては有難く、また学生からみても採用選考を過剰に意識することなく参加できるため、まさに「就業体験」として、学生自身が県内企業や自治体に対する研究や業界研究を重ねながら気軽に実習先を選ぶことができた。県内企業および自治体の方々に対しては、全国的に上記のような校外実習が増えている実態を把握して頂き、近い距離にある地元の学校として高専に足を運んで頂き、地元で働く魅力や身近な先輩たちの姿を知る機会を提供して頂きたい。また、本協議会には可能な限り学生たちの歩幅や希望に合わせた校外実習を実現頂くようご尽力をお願いしたい。それらが県内での校外実習増加に繋がりを、その先にある県内産業の活性化の第一歩になれば幸いである。

キャリア教育におけるインターンシップ

「准教授」

本校では、企業等での就業体験を通して、学生の学習意欲を向上させるとともに、高い職業意識を育成し、責任感と自立心を身に付けることを目的としてインターンシップを実施しています。本科の4年生では選択科目として「校外実習Ⅰ、Ⅱ」を開講しています。専攻科では、1・2年生の選択科目「インターンシップ」としてインターンシップ関連科目を開講しています。本科では、5日以上（18日未満）の短期インターンシップを1単位の「校外実習Ⅰ」として、18日以上長期インターンシップを3単位の「校外実習Ⅱ」として単位の認定を行っています。また、専攻科の「インターンシップ」においては、インターンシップ期間を135時間以上とし、実習時間に応じて3単位から最大6単位まで修得できる科目となっています。長期インターンシップでは、1ヵ月以上にわたり業務に関わることによって企業などの活動理解の促進、社会人としてのコミュニケーション能力の獲得、自身のキャリア・デザインの明確化をさらに図ることができます。

なお、実施企業等の担当者を始めとして多くの方と関わることから、インターンシップ参加学生には事前教育への参加、報告書の作成等を義務づけています。事前教育は、参加の目的や意義、提出書類、ビジネスマナー等の説明及び企業人による講話を実施しています。受け入れ先の決定後から事後の指導までは、本科生はクラス担任、専攻科生は指導教員が担当しています。県内インターンシップでは可能な限り担当教員と学生が事前に受け入れていただく企業等を訪問し、担当者との研修の内容を確認すると共に、就業時間、服装等の打ち合わせを行っています。実習後は報告書を作成し、担当教員が内容を確認した後に企業の担当者に最終確認をお願いしています。また、例年10月～12月に、各学科、専攻科で報告会を実施し、インターンシップで得られた成果や課題等を報告します。

昨年度より、「インターンシップの推進にあたっての基本的な考え方」を改正し、一定の基準を満たしたインターンシップでは企業が得た学生情報を採用選考活動に使用できるように見直されました。今年度はこの基準を満たし、学生情報を採用選考活動に利用したいと考えている企業が増えた印象でした。

今年度は4年生の学生209名中148名（70.8%）がインターンシップに参加しました。山口県インターンシップ推進協議会を通じて県内企業などでの短期インターンシップに参加した学生は本科の4年生22名でした。県内企業等への参加者は昨年度と同程度でした。

インターンシップに参加した学生は、働くということの大変さや厳しさを実感し、学生と社会人の違いやビジネスマナー・コミュニケーション能力の重要性、そして自分に足りない能力に気づくことができたという感想を報告書に書いていました。インターンシップは、学生自身のキャリア・デザインを明確にし、その実現のための目標や課題を考える良い機会になっていることが報告書からも読み取ることができました。

最後になりましたが、学生をインターンシップ生として受け入れていただきました事業所の皆様、事前研修及びマッチング等でご支援いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後も引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。